立場で変わる記録：2つの記録の比べ方（架空）

同じ出来事なのに、2つの記録の書き方がちがうのはなぜか

架空の出来事：江戸時代のある夏、日照りで水が足りず、A村とB村が同じ川から引く用水の水をめぐって争った。

A村の記録（要約）

書いた人：A村の名主　書いた時期：争いの直後
目的：代官所に訴えを出すため

「昔からのきまりどおり、
A村が先に水を引いた。」

「B村の者がおよそ50人で
押しかけてきた。」

「代官所に訴え、
A村の言い分が通った。」



1. **どちらが先に水を引いたか**
   書き方がちがう
2. **集まった人数**
   書き方がちがう
3. **争いの結果**
   書き方がちがう

B村の記録（要約）

書いた人：B村の名主　書いた時期：争いから20年後
目的：村の記録として残すため

「A村が、きまりより先に
水をせき止めた。」

「名主など10人ほどで
話し合いに行った。」

「代官所のさばきで、水を
日ごとに分けて使うことになった。」

なぜちがう？ 3つの見方で確かめる

1 書いた人の立場（作成者）
どちらも自分の村の名主。
自分の村の立場から見たことを
書いている。

2 書いた目的（作成目的）
Aは訴えを出すための文書。
訴えるときは、自分に有利な
点を強く書くことがある。

3 書いた時期（作成時期）
Bは20年後に書いた。時間が
たつと、記憶がうすれたり、
その後のことがまざったりする。

確かめる方法　ほかの資料とくらべる：第三者の記録（代官所の記録・ほかの村の日記）、絵図（用水路の図）、現地に残る水路や石碑
→ 2つの記録に共通する点と、食いちがう点を分けて考える

※ 出来事・村・2つの記録はすべて架空で、実在の文書を写したものではない。どちらが正しいかは示していない。